

市指定有形文化財「石造宝篋印塔（文和五年銘）」（泣塔）

の公開に向けた防災工事について

「石造 宝篋印塔（文和五年銘）」（泣塔）が建つ丘陵には、倒壊する恐れのある危険木や枯損木が繁茂し、根によって岩盤に亀裂等が生じ、放置すると泣塔及び丘陵が崩落する危険があったため、樹木の伐採と除草作業を行いました。

今後は、深沢地域整備事業の進捗にあわせて、丘陵の崩落防止のための設計、工事を実施し、泣塔を安全に公開できるようにしていく予定です。その際には植生の整備も含めて、景観に配慮した工法を検討していきます。

地域に根付いた文化財として親しまれてきた泣塔を、後世により良い状態で伝え、また来訪者の方々が安全に見学できるよう、工事等を実施してまいります。近隣の皆様をはじめ住民の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。

泣塔の概要

石造宝篋印塔（文和五年銘） 一基

（昭和46年9月11日 鎌倉市指定）

宝篋印塔は舍利塔の一つの形式をいい、本塔は総高203 cmの安山岩製で、関東形式宝篋印塔の典型です。

基礎には銘文が刻まれ、「行浄（僧侶）が、石塔婆（泣塔）を建立します。それぞれの檀那（出資者）の現世での安穏と、死後は善い場所（浄土）に生まれることを願います。文和5年（1356年）2月20日に供養しました」という内容が記されています。

「泣塔」の名前は、かつてこの塔を手広の青蓮寺に移したところ、夜な夜なすすり泣く声が聞こえたため、元の場所に戻したことに由来するなどといわれています。

